

タ

イのアユタヤに流れるチャオプラヤ川が氾濫してアユタヤ遺跡が水没したのは2011年7月のことである。今回訪問したハイテク団地ではホンダ、日産、キャノン、HOYA、ソニーらが洪水被害に見舞われた。400社以上の日系企業の被害は甚大であったが、やっと通常に戻ってきたので新年の挨拶を兼ねて現地の工場を訪問した。

レアメタルを扱うハイテク企業がこの周辺には多く、洪水の後には使い物にならなくなったスクラップ材が大量に出てきたことを記憶している。そんなこともあって去年からバンコク周辺の日系企業を中心にレアメタル・スクラップを集荷する合併企業を立ち上げた。

パートナーはYOKOSHIRO THAILAND (09年11月設立) である。横城商事(愛知県江南市)は東海地域でレアメタルのリサイクル事業を推進してきた企業である。超硬工具の原料になるタングステンやモリブデン、タンタル、ニッケル、コバルトの回収集荷を35年にわたって行ってきたが、空洞化の影響で日本での集荷量が減少傾向になっていた。

当社も同様にシンガポールに現地法人を設立したのを機にアセアンにおけるレアメタルリサイクルを行うためYOKOSHIROと協力して合併企業を設立したのである。現状のスクラップ取引量では日

本企業が6割、現地タイ企業が4割の比率だが、現地企業の比率が増加しておりタイ経済への貢献ができてると自負している。

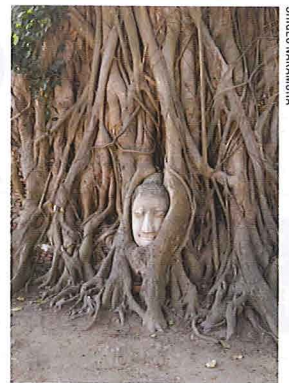
YOKOSHIROの角田賢二社長(43歳)は05年からホテル経営やレストラン経営の目的でタイに渡ったが、実家で行っているレアメタル経営を海外展開させるため、現地企業を09年に自ら起業したのである。そして2年後には折からの洪水による特需も後押しとなって好調な滑り出しとなった。

さて、アユタヤまで来たのだから世界文化遺産になっているアユタヤ遺跡を見学した。

アユタヤは1351年に建都されてから417年間もアユタヤ王朝の中心として発展したが特に17世紀には欧州と東南アジアを結ぶ国際貿易都市として繁栄した伝統がある。

アユタヤは朱印船貿易で栄えたので当時の日本人町には1500人も日本人が住んでいたといわれている。その日本人町の頭領となったのが山田長政である。1612年頃に

朱印船でシヤム(現・タイ)に渡り日本人傭兵隊に加わり、スペイン艦隊の二度にわたるアユタヤ侵攻を退けた功績でシヤムの王女と結婚してチャオプラヤ川に入ってくる船の税



クメールの破壊から逃れるために仏頭を土に埋めたところガジュマルの樹に包まれて再び出てきた

金を徴収する高官にまで出世したという。

角田社長と話していると山田長政の時代と現在がなぜか重なってくるような気にさせられる。関ヶ原の戦いの後、

山田長政は浪人となり、もはや戦いのない日本にいるよりも海外に出た方が可能性はあると思っただけで、角田社長も柔構造社会の日本にいるよりも活躍ができるタイに進出したのである。

さて、話題は変わるが、私がバンコクにいる間に大きなニュースが飛び込んできた。タイ最大級の華人系財閥であるチャロン・ポカパン(CP)グループが去年から伊藤忠商事との提携話を本格化したことは周知の事実だが、伊藤忠商事はCPと組んで中国の国有コングロマリットである中国中信(CITIC)に1兆2040億円を投じることを決定したというニュースである。

資源ブームが一段落したので伊藤忠とCPは食料やコンビニ経営やインフラが事業の中心となる。レアメタル市場のみならず新しいアジアの経済圏が東南アジアと中国と日本で相乗効果を発揮し更なるグローバルシフトが本格化することに期待している。

AROUND THE WORLD

山師の手帳

中村繁夫 Shigeo Nakamura

レアメタルリサイクル グローバルシフトが本格化

第39回

写真・生津勝隆 Masataka Namazu

なかむら・しげお レアメタル専門商社、アドバンストマテリアルジャパン(AMJ)社長。日本におけるレアメタルの第一人者。世界100カ国を訪問し、世界制覇を目指す。

